

01 STUDENT web サイト

リメイク前



リメイク後



本校の学生専用サイトの改善

本校、公立はこだて未来大学の学生専用サイトである「STUDENT」をリメイクした。ユーザーにとって分かりやすいデザインにするために、認知的な視点からサイトの問題点の調査と分析をした。分析結果を元に改善案を提示しプロトタイプを制作した。その後ユーザー評価をし、分析結果を元にさらに改善した。

- コンセプト
- ユーザーが分かりやすい、認知的負荷が小さいサイトのデザイン
- 使用したスキル
- HTML,CSS,illustrator
- 制作期間
- 1ヶ月
- 授業名
- HI 演習



改善前のサイトの調査と問題点抽出

実際に改善するサイトを利用し、調査した。自分自身、そして友人にもサイトを使ってもらい感想を聞かせてもらった。そうすることで、ユーザーがどの点で**使いづらい**と思うのか、どの点で**困る**のか、といったような、このサイトの**問題点の抽出**ができた。



現在開いているページがわからない

どのページも同じ配色で、どこにも現在開いているページを表している文字や表現がないので、現在開いているページがなんのページなのかわからなくなっている。



成績や時間割の表が見づらい

複雑な情報を文字と数字だけの表で表されており、縦軸と横軸を合わせて見ないと知りたい情報がわからない、非常に見づらい表になっている。



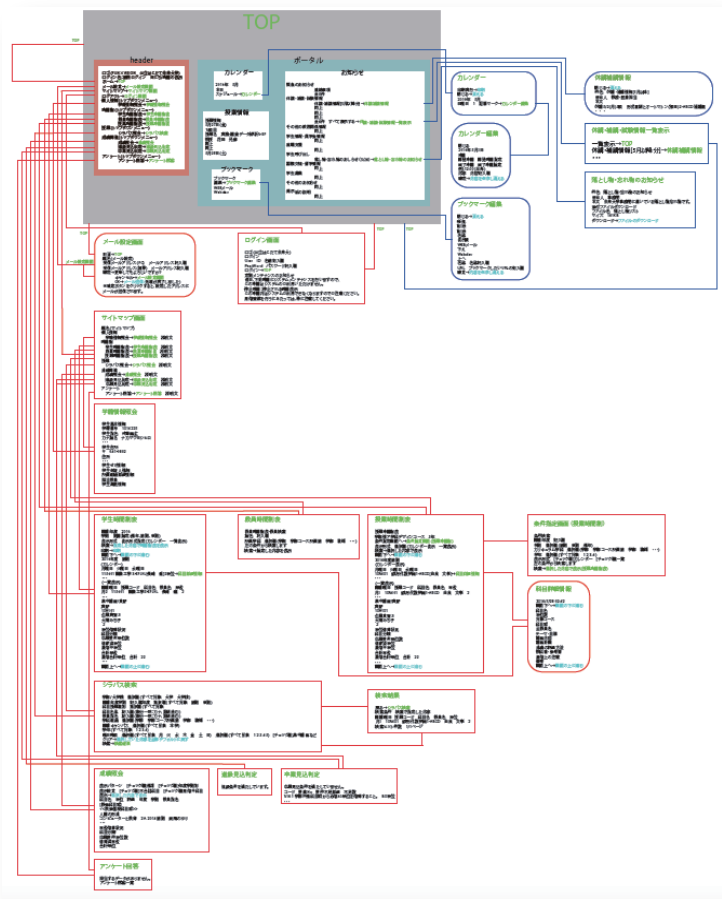
リンクがリンクなのか分かりづらい

表になっていて、文字の羅列の中にリンクとなっている文字があり、存在感がなくてリンクなのかわからない状態になっている。そのようなリンクがこのサイトには多く見られた。

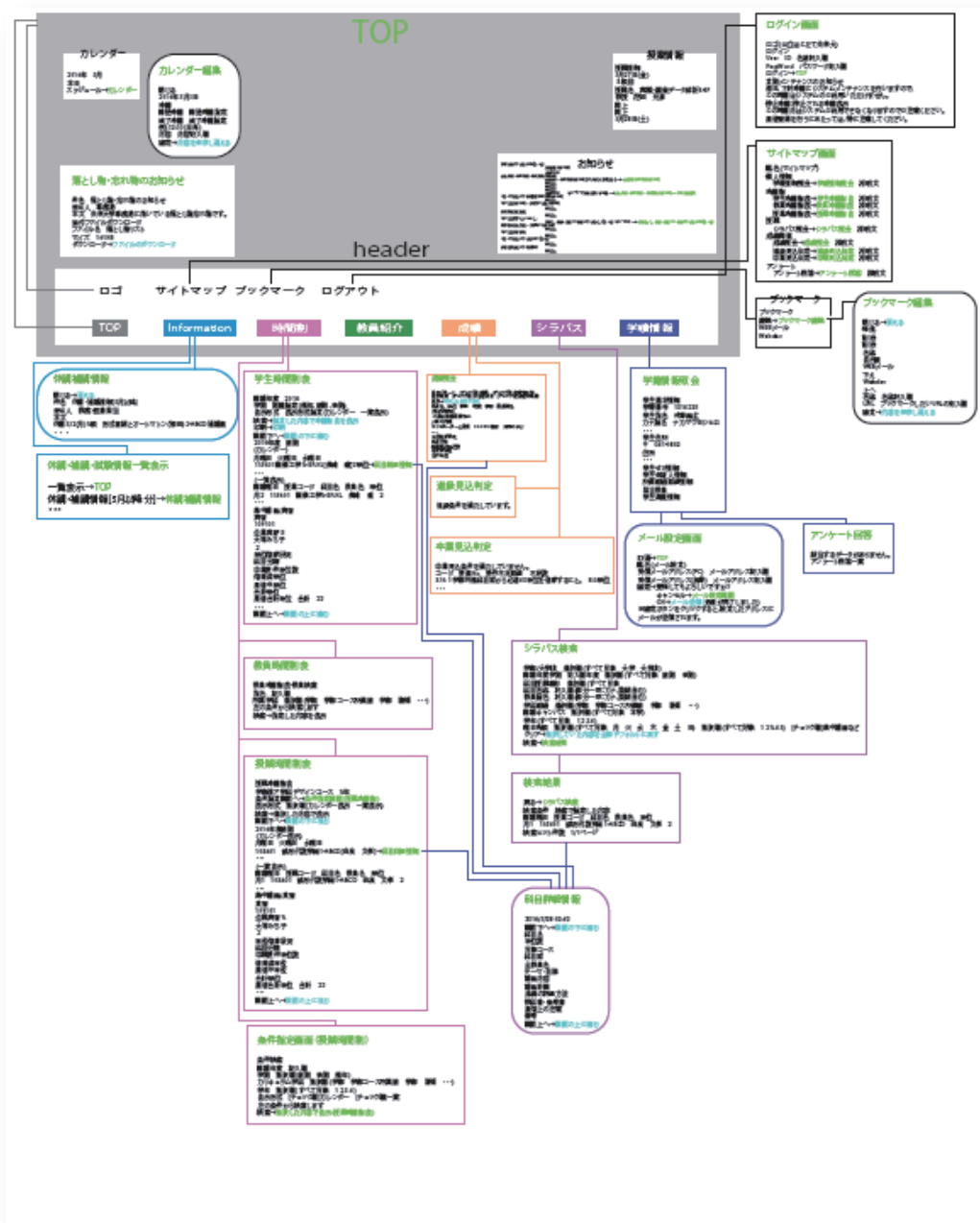
情報を構造化し改善案を考案

web サイトの分析をした。web サイトがどのような構成になっているのかを構造化することで把握し、問題点の抽出をした。その後改善案を考案し、ユーザーにとって扱いづらい情報の配置を並べ直したりまとめたりして整理した。

改善前



改善後



画面遷移が多く、たどり着きにくいページがある

シラバスなどのページは、一度検索をしてから各教科のシラバスのページにたどり着く。このように一度手間をかけなければたどり着けない。

同時に利用したい情報にすぐアクセスできない

例えば休講情報を利用して、時間割の情報を見たい時に、一度ホームに戻ってから時間割のページを開かなくてはならない。

画面遷移を減らして見たい情報へのアクセスを容易にした

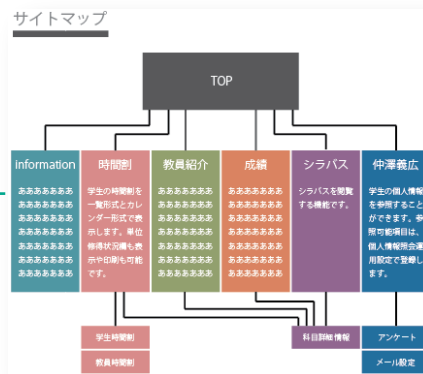
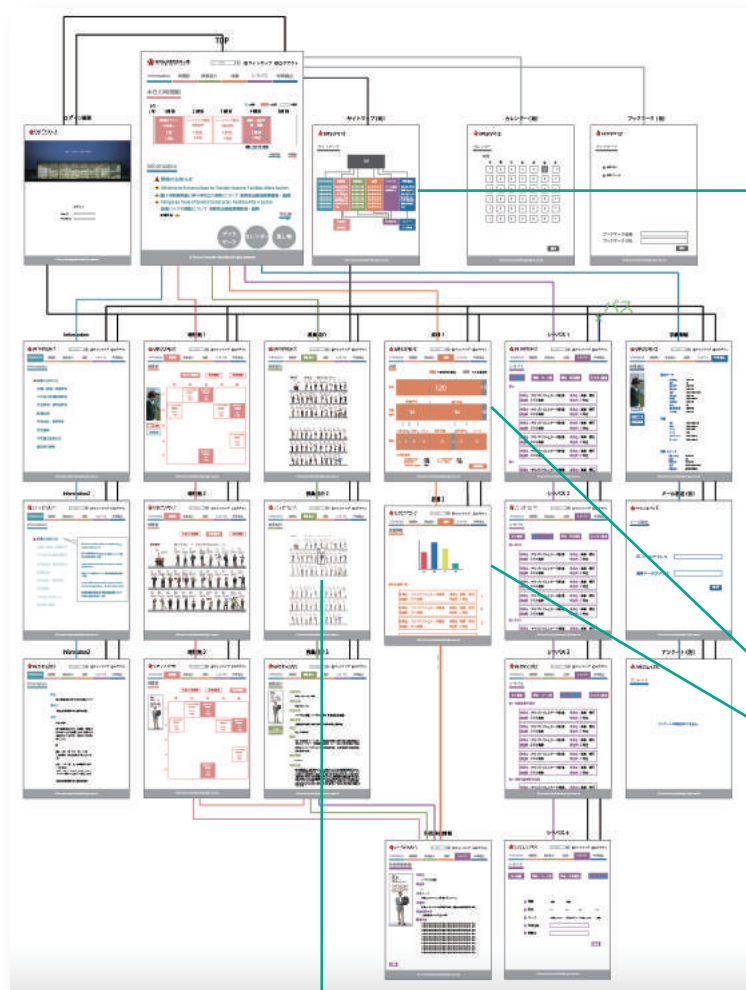
階層を減らすことにより、ホームからの画面遷移を減らした。サイトはどのページからもホームに戻れるようにしたので、ユーザーが欲しい情報へすぐにアクセスできるようにした。

関連性の高いページに、直接アクセスできるようにした

関連性が高いと思われるページへのリンクを必要なページに設けて、ユーザーの利用効率が高まるようにした。

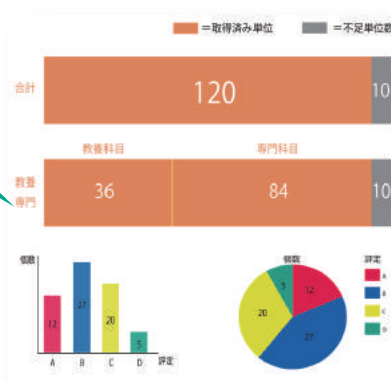
web サイトのレイアウト作成

整理した情報を illustrator を用いてグラフィック化し画面のレイアウトを作成した。視覚化することにより具体的な画面遷移の確認ができる他、コーディングをするための設計図にもなった。



サイトの構成が一目でわかる

サイトマップでこのサイトの大まかな画面遷移の流れを表現し、サイトの構成をユーザーに理解してもらう。



直感的に情報を把握できる

見てすぐにわかるように、表になっていた成績の情報をグラフで表現した。これで比較なども容易にできるようになった。



ヘッダーによるページの位置表示と配色による情報のグループ化

背景色を付けておくことで今見ているページがどこなのかを把握できる。情報のグループごとに配色をして各グループに印象をつけた。

タブにして1ページに収め、画面遷移を減らした

元々ヘッダーのトップダウンで配置されていたページをタブで並べることで、1つのページで完結し画面遷移も減った。

関連性の高いページへのリンクで、ユーザーの作業の効率をあげる

関連性の高いページへのリンクを置くことでページを探す手間を省き、ユーザーの作業効率をあげる。

Process

調査
問題点を抽出

分析・整理
改善案の考案

レイアウト作成

プロトタイプ
の作成

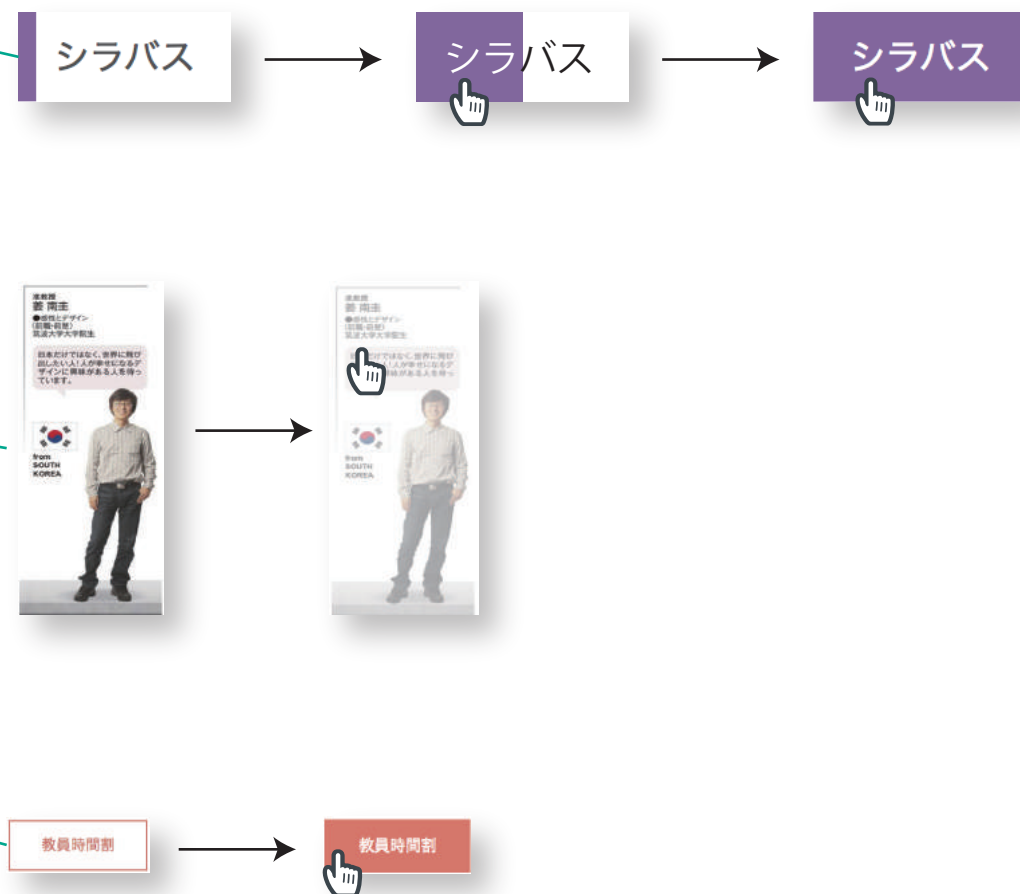
評価実験
改善

コーディングによるプロトタイプの作成

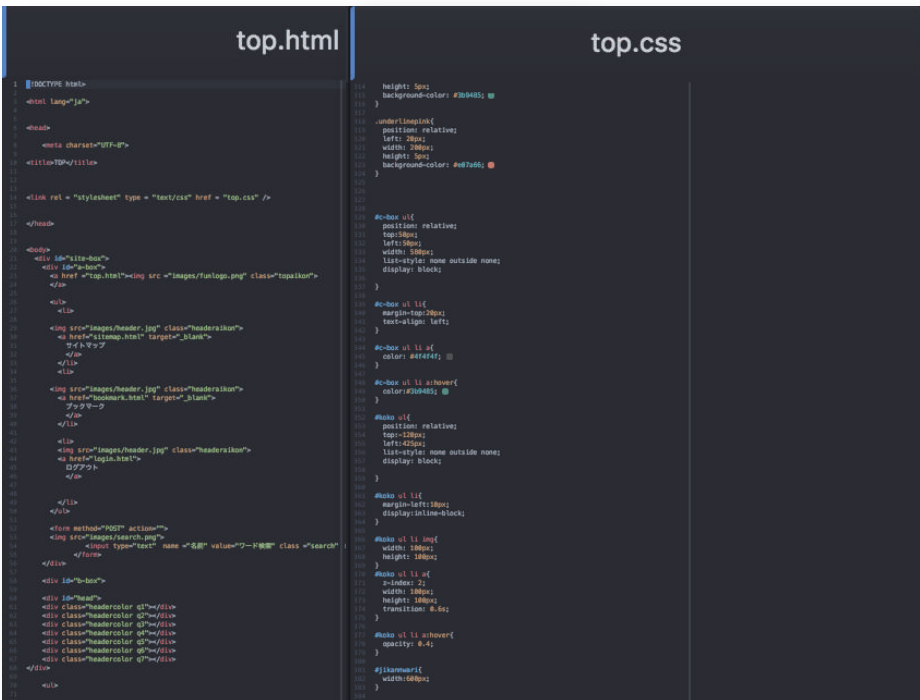
レイアウト制作の時は考えることがなかった、サイト操作時のエフェクトをコーディングをしながら、試行錯誤しプロトタイプを完成させた。



ホバーエフェクトでリンクであることを理解させる



拡大して他の項目と差別化し、強調して選択しやすくした



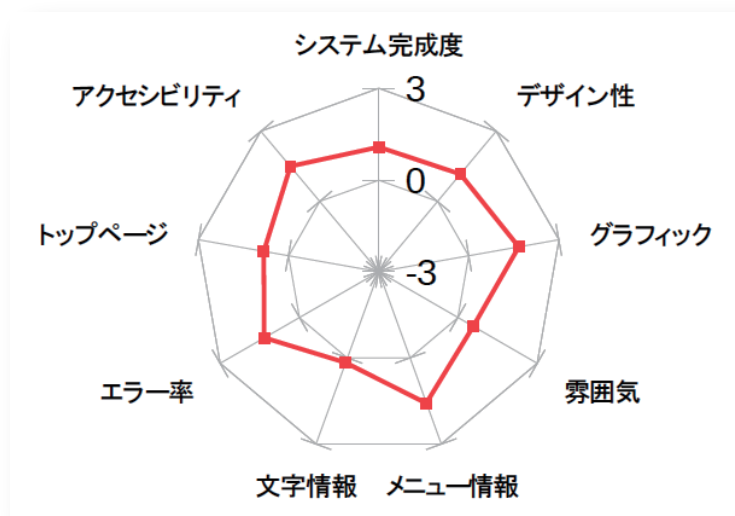
HTML,CSS によるコーディング

ユーザー評価とその後の改善

制作したサイトが本当にユーザーにとって使いやすいのかを確かめるために、評価実験を行ってサイトの改善点を抽出した。実験の内容は元々用意されている 12 種類のタスクをユーザーが私の web サイトを使って行うものである。12 人のユーザーに協力してもらい、ユーザーは 1 人 1 タスクずつ行ってもらう形だ。タスクを実行するにあたって使いやすい点、使いづらい点を評価してもらった。

| 2016 HI 演習 | | 公立はこだて未来大学Studentサイトの構築とHI評価 | |
|--|---|------------------------------|--|
| 製作者の学籍番号: 1014225 | | 評価者の学籍番号: 1014080 | |
| 1. タスクの遂行ができるシステムになっているか。(リンクの有無、コンテンツの有無、システムの完成度など) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |
| 2. 目的のページまですぐ行けたか。(カテゴリわけ、スクロール数、目的までの階層の深さ、ダウンロードしないと情報が見えないなど) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |
| 3. トップページで全体の構造が把握できるか。(トップページの構成、コンテンツ量、ボタンの位置づけなど) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |
| 4. タスク遂行中に、迷い・またはエラーが起きたか。(間違えて操作してしまうような構造、操作時のエラーの回数、迷うデザインなど) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |
| 5. 文字情報は分かりやすいか。(文字の色、文字の量、文字の大きさ、行間など) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 2 | |
| 6. メニュー(ボタン)は分かりやすく、操作しやすいか。(ボタンの色、ボタンの配置、ボタンの大きさ、ボタンの量など) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 2 | |
| 7. 大学の雰囲気を感じ取れるか。(大学のアイデンティティや信頼感などが伝わるかなど) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |
| 8. 使っているグラフィック・アイコンなどは適切か。(イメージの量と大きさ、内容との関連付け、イメージの配置など) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 2 | |
| 9. デザインセンス(美的な表現力)は良いか。(美しい、格好良さ、魅力感など) | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 2 | |
| 10. 総合評価としてのインターフェース評価は? | とても悪い 悪い やや悪い どちらでもない やや良い 良い とても良い | 3 | |

評価実験用紙

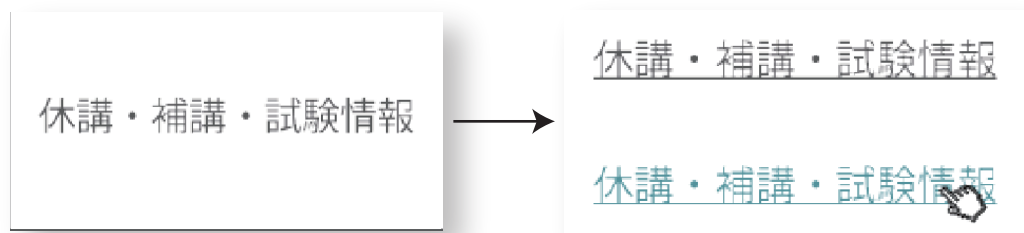


評価実験結果

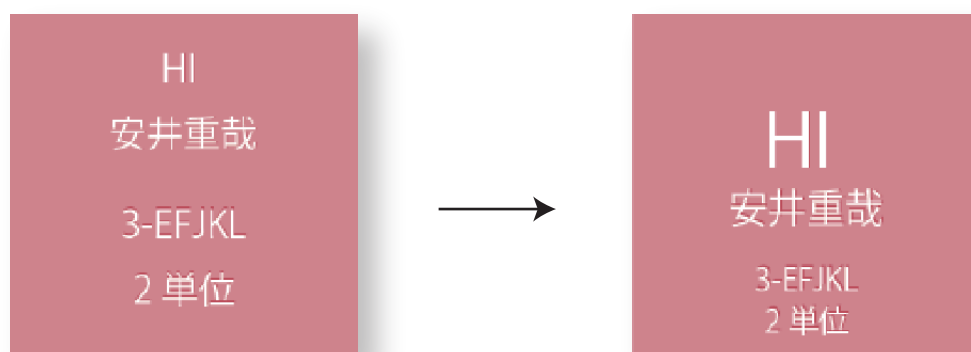
全体的には高評価だったものの、「文字情報」に関しては評価の低い結果になった。文字情報に関する以下二つの問題を見つけ出し、改善した。

実際に改善した

色変更や下線の追加でリンクであることを分かりやすく



文字にサイズの大きさを付け加えることで分かりやすく



文字にリンクが張ってある部分がいくつかあったのだが、エフェクトを何もかけていなかったのがリンクなのかどうか分かりづらくなっていた。そこで下線や色を加えることで分かりやすくした。

科目名が一番大事な要素なので大きくして、他の文字を小さくし、文字に優先度をつけて目立つようにした。